２０１８．３．２７

大草

読書メモ

80．石原莞爾「最終戦争論」中公文庫（1993.7）

81.　石原莞爾「戦争史大観」中公文庫（1993.7）

82.　早瀬利之「石原莞爾　満州合衆国」光人社（2003.11）

**＜石原莞爾の思想の背景にあるものについて＞**

・石原莞爾の発想・思考・行動の背景にあるものを考えてみた。

１．日蓮宗の影響

①日蓮が世界最終戦争を予言しているとの信念があった。最終戦争では、日本が勝利し、天皇と法華経の下に世界統一し、永久平和をもたらすとの信念。

②我国の柱たらんとするとの信念と行動力を持っていた。国柱会の会員。

③一心（本仏への帰依）、不惜身命（法華経の布教拡大に命を懸ける）、一天四海皆帰妙法（世界を法華経にて統一する）の思想を持ち、その実現に向けて行動した。

2．勉学と修練

①飲酒・女遊びを避けて、専ら勉学に励んだ。

②豊富な知識（ドイツ留学、陸軍大学、世界各国の戦争に関する学習）

③精神鍛錬（日蓮宗信者、言行一致、目標達成力、行動力）

３．世の中の情勢の把握（日本、諸外国、世界）

①軍国主義、帝国主義の時代

②ロシア革命と共産主義思想の世界的蔓延

③ABCD包囲網

④大東亜共栄圏、八紘一宇の思想

⑤日中戦争の拡大

⑥ドイツの戦争拡大

⑦第二次世界戦争勃発の予測

⑧アメリカの台頭

４．日本の将来構想

①天皇を中心とした日本による世界統一

②共産主義との戦い

③ソ連、アメリカとの戦いに備えること

・満州国によるソ連の牽制

・軍備増強

・人材育成

④満州国の殖産興業・資源活用による国力増大

⑤中国、南方への進出反対

５．広い視野

・世界各国を訪問し、見聞を広めていた。このため、視野が広く、思考の視点も高く、

自由な発想ができたのではないか。

６．明治憲法下での日本の統治制度

①主権は天皇にあった。

②軍隊の統帥権も天皇にあった。

③立憲君主国

７．自分の頭で考えた

・世界平和のための最終戦争の可能性について研究し、自分の頭で考え、結論を導き出した。誰にも遠慮せず、我が道を一直線に進むタイプの軍人であった。

・独創性

以上